

紅岡
陽田

富士望景
武蔵野から

(井の頭池)1969年撮影

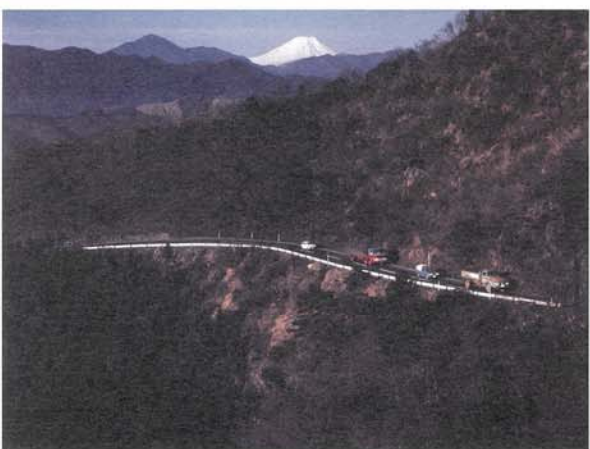
2020年 8月8日[土] / 9月22日[火・祝]

武蔵野市立吉祥寺美術館

開館時間 | 10時00分 - 19時30分 休館日 | 8月26日[水]

入館料 | 一般 300円 / 中高生 100円 (小学生以下・65歳以上・障がい者の方は無料)

主催 | 武蔵野市立吉祥寺美術館 [(公財)武蔵野文化事業団] 協力 | 岡田紅陽写真美術館、津野祐次



右：湖畔の春 1935年撮影
 中：〔武蔵野周辺〕撮影年不詳
 左：〔高尾周辺より〕撮影年不詳

岡田 紅陽

富士望景 武蔵野から

2020年 8月8日〔土〕 - 9月22日〔火・祝〕

開館時間 10時00分 - 19時30分

休館日 8月26日〔水〕

入館料 300円（中学生100円、小学生以下65歳以上障がい者の方は無料）

主催 〔武蔵野市立吉祥寺美術館〕〔公財〕武蔵野文化事業団

協力 岡田紅陽写真美術館、津野祐次

武蔵野市ゆかりの写真家・岡田紅陽（本名・賢治郎、1895-1972）。

岡田は新潟県の現・十日町市に生まれました。父や祖父は畫畫の才に秀で、芸術が身近な家庭環境にあったといえます。早稲田大学進学後から写真表現に熱心に取り組むようになった岡田は、1916年の冬、忍野村で体験した富士山の姿に圧倒され、以来、富士山の撮影に生涯を捧げることを決意します。

山岳写真家・芸術写真家の先駆けとなった岡田の写真は、数々の国際親善の場において各国首脳などに贈られ、「富士の写真家」として国内外にひろく知られることとなりました。身近なところでも彼の写真に触れる機会も多く、多数の郵便切手に彼の写真が採用されたほか、旧五千円紙幣および現行千円紙幣の裏面を飾る「逆さ富士」の装画は、『湖畔の春』（1935年）がもとになっています。

さらに、岡田の活躍は富士山の撮影にとどまらず、各地の国立公園に足を運んで風景美を多数の写真におさめて国内外で紹介したり、日本観光写真連盟や日本写真協会など写真家団体の設立に携わったりするなど、写真の普及にも幅広く尽力しました。川端龍子、川合玉堂、横山大観、林武、朝倉文夫といった、明治から昭和を彩る芸術家たちとの親交も特筆すべきでしょう。

長く居住していた都心部に高層の建物が増え、富士山を眺めるのが困難になったことから、岡田は1961年に武蔵野市へ移住、没年までの10年あまりを過ごしました。武蔵野の自庭には2階建ての別棟をこしらえ、その上から富士山をのぞんでいたといえます。

富士山を「富士子」と呼ぶほどに愛し、その刻々とうつりかわる表情に向き合い、「富士こそわが命の根幹」と語っていた岡田。彼の写真は、古来より「富士」という存在を畏れ、あるいは希求してきた日本人の精神を具現するのみならず、富士山を通して感覚される普遍的な美にも迫っています。

いっぽうで、彼の死後スタジオに遺されていた未現像のフィルムには、郊外の夕暮れや井の頭池の朝など、武蔵野での暮らしのなかに流れていた穏やかな時間がそのままにおさめられているものもあり、富士山に對峙するときとは異なる岡田の視線も、うかがい知ることができます。

岡田は、関東大震災直後の被災地の記録撮影や、大戦の空襲によるネガや乾板の焼失も経験しました。日本が平和な暮らしをふたたび獲得し、高度成長期を迎えるなか、彼はどのような思いを抱いて富士山に向かったのでしょうか。また、都心部の喧嘩から少し離れた武蔵野での暮らしは、彼に何をもたらしたのでしょうか。

周囲の様相がどれほど変転しようと、その麗姿をもって日本の精神の拠でありつづける富士山。かつてないほどの不安を抱えることとなった2020年ですが、富士山にひたすら向かい続けた岡田の姿を追いながら、艱難のうちにあつてなお変わらぬものとはなにかを、問い直したいと思います。

【新型コロナウイルス感染症感染防止のためご協力ください】

- ◇マスクの着用をお願いいたします
- ◇入口にて非接触型体温計により検温させていただきます
- ◇館内各所に消毒液を設置しておりますので、入退館の際は手指を消毒してください
- ◇入館時、日時・代表者氏名・連絡先電話番号・住所（市町村名）・人数のご記入をいただきます（書式は美術館ホームページよりダウンロードいただけます）
- ◇ご滞在は1時間程度までを目安としてください
- ◇他のお客様とは2m程度の距離をとっていただき、飛沫拡散防止のためできるだけ会話はお控えください
- ◇密集等の混乱を防ぐため、18:30頃までを目安にお越しく下さい
- ◇混雑時は人数制限をおこない、ご入館いただけない場合もございますので、ご了承ください



武蔵野市立吉祥寺美術館

T180-0004

東京都武蔵野市吉祥寺本町1-8-16 コピス吉祥寺A館7階

JR線・京王井の頭線 吉祥寺駅 北口より徒歩約3分

tel.0422-22-0385 / fax.0422-22-0386

http://www.musashino-culture.or.jp/a_museum/

※美術館専用の駐車場はありません